



キノコってどうしていうの

キノコは「木の子」

キノコはカビの仲間なかまで、植物しょくぶつの一種いっしゆですが、ふつうの植物しょくぶつのように、太陽たいようの光ひかりを受けて自分じぶんで栄養えいようを作る力つくりがなく、くさった木きや落ち葉おちばの栄養えいようを取り入れて育ちます。森もりや林はやしの中で倒たおれた木きから、によきによきそだ育つキノコみを見て、昔むかしの人が「木の子きこども」だと思おもうのも自然しぜんなはなしです。

食べられるものがほとんど

日本にほんには5000種しゆほどの種類しゆるいがあり、食べられるものたがほとんどです。シイタケ、シメジ、エノキタケ、ヒラタケなどはさかんにさいばいされています。マツタケは、さいばいすることができません。

どく毒キノコ

どく毒どくのあるのは50種しゆほどです。中毒ちゆうどくの多いおおのは、クサウラベニタケとツキヨタケです。ツキヨタケを食たべたときの症状しやうじやうは、目めにうつるものすべてが青色あおいろに見えるのが持ちとくょうです。クサウラベニタケの場合ばあいは、はきけげりと下痢しやうじやうです。症状しやうじやうは数時間すうじかんで回復かいふくします。

死しをもたらずタマゴテングタケとドクツルタケ

死亡事故しぼうじこの多いおお毒キノコどくはタマゴテングタケとドクツルタケです。食たべたあと、十数時間じゅうすうじかんたってから、腹痛ふくつうや下痢げりの症状しやうじやうがでます。毒どくの成分せいぶんは、環状ペプチドかんじやうで、ファロトキシン、ピロトキシン、アマトキシンなどです。肝臓かんぞうがだめになり、死しぬことがあります。

(監修・中山 周平)

